

# 東海自然歩道 西の起点 明治の森箕面自然休養林

京都大阪森林管理事務所

明治の森箕面自然休養林は、昭和五〇年に箕面国有林の五八二ヘクタールを指定したもので、大阪府箕面市の北部、北摂連山の南端に位置しており、標高は一六〇メートル〜六〇〇メートルになります。景観を形成する樹木は、天然林ではカシ、シイ、ツバキ等の常緑広葉樹、カエデ、クリ、コナラ、サクラ等の落葉広葉樹を主体としており、それら天然林とスギ、ヒノキの人工林が見事なコントラストを呈し、箕面川、勝尾寺川の溪流と良く調和した素晴らしい自然景観を見せています。また、山稜に上れば摂津平野からはるか大阪湾に連なる市街地がパノラマ状に一望され、眺望も



箕面滝

きわめて優れています。林内には多くの植物が生育し、植物の宝庫として貴重な存在となっています。周辺には、名刹勝尾寺、開成皇子の墓、大阪府箕面公園内に生息するニホンザルの群生(天然記念物)、箕面の滝、灌安寺等が所在しています。また、隣接する大阪府箕面公園には、昆虫館、展望台等のレクリエーション施設も豊富です。

昭和四二年には、明治百年を記念して「明治の森箕面国定公園」に指定されています。この時に、箕面と東京都の高尾山が同時に国定公園に指定され、この二つの国定公園を東海自然歩道が結んでいます。ですから東海自然歩道の西の起点は箕面なのです。国定公園指定後には公園施設として、園地、駐車場、ビジターセンター、休憩舎等が設置されました。

明治の森箕面自然休養林は、箕面国定公園の六割を占め、中核的な位置づけとなっています。また、大部分が水源かん養保安林に指定されて



水洗エコトイレ



おり、国民の保養、レクリエーションの場のみならず、水資源の確保も重要な役割となっています。当休養林は、利用形態によって風景ゾーン・自然観察教育ゾーン・風致探勝ゾーンに区域を分けて目的にあった施業方法を設定しています。

国有林、大阪府、箕面市で協力し、遊歩道、案内看板、トイレ等の施設の整備を行ってきましたが、施設の老朽化が目立ちはじめたため、昨年より全国七箇所「リーディングプロジェクト」と称してリフレッシュ対策を実施しています。昨年度は、勝尾寺園地内に、スギ間伐材のチップを利用した水洗エコトイレ(写真・スギ材チップに生息する微生物の働きでし尿を処理し、処理水を循環利用するので無汚泥・無排水です)を設置しました。

このほか、ボランティアとの協働をテーマに、国定公園保護管理運営協議会の中に「自然休養林部会」を設置しました。月に一度は話し合いを行い、継続的な植生調査を実施して、間伐後の植生変化などをモニタリングする予定です。また、数多くある遊歩道から代表的なコースを選定し、コースマップの作成、マナーアップ教室の実施など考えています。



森林環境教育(勝尾寺園地)

このように、全国でも先駆けとなる取組を行っているのが箕面自然休養林なのです。

〒六〇二・八〇五四  
 京都市上京区西洞院通り下長者町下ル  
 丁子風呂町一〇二  
 京都農林水産総合庁舎  
 TEL 〇七五・四五二・一九六一  
 (代表)  
 FAX 〇七五・四三二・二三七五  
<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/>  
 Kyoto